

Security Platform

守るだけじゃない。-物理セキュリティ-

株式会社セキュア（証券コード：4264）



✓ Expression: Smile

👤 Ella Hudson
🏢 Tokyo: 6-hour stay

■ 189cm: Blue shirt

👤 People: 4

Object: luggage

SECURE

セキュアってどんな会社なのか？

SECURE

セキュアってどんな会社なのか？

AI x セキュリティで
社会課題を解決する成長企業

01

- 01 事業内容
- 02 セキュアの強みは？
- 03 なぜ成長するのか？
- 04 2つ目の成長戦略始動

事業内容

～どんな事業をしている会社なのか？～

基礎情報

会社名	株式会社セキュア（英文表記：SECURE, INC.）
代表者	代表取締役 谷口辰成
設立	2002年10月（第2創業 2010年）
資本金	1,762,175,500円（2026年4月1日現在）
本社	〒163-0220 東京都新宿区西新宿二丁目6-1 新宿住友ビル20F
子会社	SECURE KOREA, Inc. 株式会社ジェイ・ティー・エヌ 株式会社メディアシステム 株式会社TOUCH TO GO 株式会社テスコムジャパン（2026年7月1日より）
主な事業内容	セキュリティソリューション事業
事業許可等	【一般建設業】 国土交通大臣許可（般-6）第27739号 建設業の種類 電気工事業 国土交通大臣許可（般-6）第27739号 建設業の種類 電気通信工事業
所属団体	一般社団法人 日本コンピュータシステム販売店協会 一般社団法人 日本ディープリンング協会

社員数



2026年4月1日時点

役職員数 **308名**※（連結）

※派遣・出向社員等含む

拠点



※本社及びSecurity System Lab

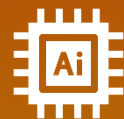
Mission

Make place Secure
Upgrade place Smart



Vision

AI × セキュリティで
新しい価値を創る



AI

(画像認識)



セキュリティ

「ソフト」と「ハード」で構成された物理セキュリティシステムを提供
顧客の求めるセキュリティニーズに応じて、AI（画像認識）を活用した付加価値を実装



※AI未実装のサービスも存在します

3つのカテゴリーでサービスを提供

主に「オフィス・工場・商業施設」などに対してセキュリティソリューションを展開

1 SECURE AC 入退室管理システム Access Control	2 SECURE VS 監視カメラシステム Video Surveillance	3 SECURE Analytics 画像解析サービス/その他
		
提供サービス * 主要商品   (画像認識実装) (画像認識実装)	* 主要商品    (画像認識実装)	* 主要商品   (画像認識実装) (画像認識実装)
売上構成比 FY2025 : 1,857百万円 売上構成比率 : 27.2 %	FY2025 : 4,178百万円 売上構成比率 : 61.1 %	FY2025 : 242百万円 売上構成比率 : 3.5 %

顔認証デバイスなどを用いた入退室管理システムの構築・保守管理などをソリューション型で提供。
勤怠管理やオフィス利用状況の分析もできるSaaS型システムに注力。

オンプレ型システム

BioStar 



入退室管理

勤怠・労務管理

健康管理

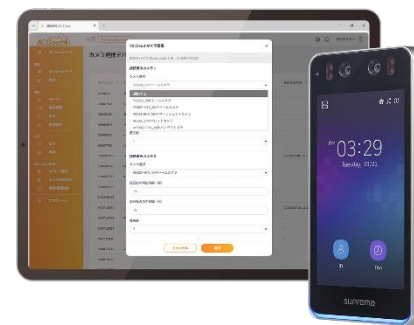
ビルシステム連動

在籍管理

API連携、等

SaaS型システム

SECURE
ACCloud 



入退室管理

入室制限

勤怠・労務管理

健康管理

オフィス稼働率可視化

在籍管理

監視カメラ連携

QRコード認証

セキュアは、監視カメラシステムの構築、デバイス販売、保守管理までを一体で支援します。
オンプレミス型からクラウド型監視カメラサービスまで、用途や環境に応じた最適なソリューションを提供します。

オンプレ型システム



統合管理

遠隔監視

マップ再生

フェイルオーバー

AI BOX連携

API連携、等

SaaS型システム



統合管理

遠隔監視

AI解析・検知

フェイルオーバー

IPスピーカー連携

API連携、等

Basic Package

AI BOX2 Lite & AI BOX2 標準搭載 (一般的な検知を全てサポート)

プライバシーマスキング

画像内で人物が検出された領域をマスキングします。イベント発生時に対象者のマスキングを解除することもできます。



衣服の色分析

検出された人のトップとボトムの衣服の色を区別できます。イベントと組み合わせで使用するか、後で検索するためにメタデータを送信できます。



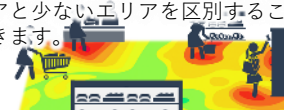
待機列管理

店舗のレジや受付などで、待機人数と1人あたりの平均処理時間が確認できます。



ヒートマップ

人が検知されたエリアのヒートマップデータを生成してサービスの向上に活用できます。ヒートマップデータを視覚的に表現することで、活動が多いエリアと少ないエリアを区別することができます。



エリア侵入

エリア内にいる人を検知し、通知を送信します。また、様々なアクションの設定もできます。



うろつき検知

特定のエリアでうろつく人、車、自転車を検知します。疑わしい動作を検知することにより、セキュリティを強化できます。



人数カウント

設定したラインを通過する人数をカウントします。複数箇所にラインを設定して通過人数を加算して出力することもできます。



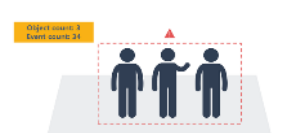
車両カウント

通過する車両をカウントできます。複数のチャンネルの車両数を合計してカウントすることもできます。



ゾーンカウント

ゾーンを設定して人数を把握します。ゾーン内の人数に応じたイベントを設定できます。



マルチゾーンカウント

複数のゾーンを設定し、リアルタイムの占有率を決定します。イベントは、ゾーン全体の人数に従って設定できます。



ラインクロス

重要資産や施設の近くに仮想フェンスを設定、常時監視し、侵入を検知します。



停止検知

一定時間以上動きがない状態で滞在した人や車両を検知します。



Stay & Go

監視区域内に一定時間以上または一定時間以下滞在して出て行くオブジェクトを検知します。



占有車両カウント

建物や店舗の駐車場など、特定のエリアに入出入りする車両を合計して、エリア内の車両を計算します。



占有人数カウント

建物や店舗など、特定のエリアに入出入りする人数を合計して、エリア内の人数を計算します。



速度異常検知

基準よりも速くまたは遅くゾーンを通過する物体を検知します。



顔のマスキング

イベントを発生させたオブジェクトを除くすべての人の顔をマスクします。



Advanced License

AI BOX2 Lite & AI BOX2 オプション (高度な検知をラインナップ) ※追加オプション費用が発生します

混雑状況検知

カメラ映像の中でエリアを設定し、時間帯別混雑状況とその頻度が把握できます。



ホールドアップ

行為の認識とシーン認識技術により脅威の状況を検出



車両タイプカウント

乗用車、トラック、バス、自転車、オートバイを車種別にカウントできます。複数のチャンネルで車種別の台数を合計してカウントすることもできます。



訪問者性別分析

顧客の性別分布を把握して製品、配置、購入パターンの決定や、新顧客向けのマーケティングデータとして活用できます。



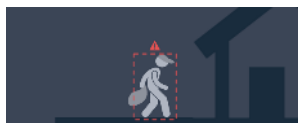
転倒検知

転倒をリアルタイムに認識し、緊急事態を迅速に通知することで、人的被害を最小限に抑えることができます。



サーマル画像侵入検知

高性能なサーマルイメージングを使用した専用の人体検知。



手足の侵入

セキュリティゾーンへの手足の侵入を検知します。



動物検知

監視エリアに現れる動物を検知します。動物による物的損害を減らすことに利用できます。



高度な属性

基本的な属性に加えて、年齢、性別、バッグ、帽子などの詳細な属性を区別できます。イベントをフィルタリングするか、後で検索するためにメタデータを送信できます。



特定方向姿勢検知

特定の方向に意図的に視線を向けている人を体の方向から検知します。ショーウィンドウの展示品に興味がある人や、家の窓をのぞき見る人を検知するアラートが送信されます。



炎 & 煙検知

監視区域で炎と濃い煙を検知し、迅速に通知することができます。



車両タイプの検知

基本的な検出アプリは、自動車、トラック、バス、自転車、バイクを検出し、イベントを生成できます。



Extra License

AI BOX2 Lite & AI BOX2 オプション（専門的なをラインナップ） ※追加オプション費用が発生します

LPR-JP

ナンバープレートを認識し、事前に登録した車番と比較して一致/不一致などのイベントを生成します。日本のナンバープレート認識専用です。



高機能ヒートマップ

行動分析により、顧客の関心度を反映したヒートマップデータを生成します。店舗の棚や展示エリアなど、複数の領域で顧客の関心度合いを把握し、視覚化することができます。



ヘルメットと安全ベストの未着用検知

監視エリアでヘルメットと安全ベストの未着用者を検知します。



置き去り検知

放置された物体を検出します。危険物や不法投棄の検知などに使用できます。



暴力行為検知

けんかや暴行などの暴力行為を検知します。



PTZトラッキング

検出された物体の移動に応じてPTZカメラを制御し、画面上で物体のサイズを一定に保ちつつ追尾することができます。



集団暴行検知

集団暴行検知



フォークリフトヘルメット未装着検知

フォークリフトドライバーがヘルメットを着用していない場合に検出します。



フォークリフトの検出

基本的な検出アプリはフォークリフトを検出し、イベントを生成できます。



覆われた顔の検出

マスク、フード、バイクのヘルメットなどで隠れた顔を検出します。



マスク未着用検知

監視エリア内でマスクを着用していない人を検出します。



車両ゾーンのプレゼンス

車両の存在に基づいて設定されたゾーンの状態を監視します。移動車両または停止車両などの占有ステータスを定義し、設定した条件を満たす車両がエリアを占有しているかどうかを判断します。



作業車両の危険検知

作業車両または人が存在するかどうかに応じて設定ゾーンの状態を監視します。移動中の人や作業中の車両などの危険状態を定義し、作業ゾーンの危険状況を知ることができます。



逆方向移動検出

監視ゾーン内を逆方向に移動する人や車両を検出します。



道路歩行者検知

自動車専用道路、橋、トンネルなど歩行者がアクセスできない区域で歩行者を検知します。



フォークリフト非運転者の検出

設定ゾーン内の人は検出しますが、フォークリフトオペレーターは検出しません。



物理セキュリティは、規模や要件によりクラウド／オンプレミスの最適な構成が変動
特に大規模・長期録画ではクラウドのランニングコストが課題となるケースも存在
クラウドとオンプレミス（ハイブリッド含む）双方に対応できることが顧客提案力に直結

クラウド提供形態の分類（オンプレミス含む）

提供形式	A All on Cloud	B Extended storage on Cloud	C Client on Cloud	D on-premise
定義	クラウドを中心にシステム全体を管理するビデオPlatform	一部ビデオデータをローカルストレージではなくCloudにバックアップする	ローカルデバイスをどこでも管理・監視するサービス	Cloudは使用せず、ローカルのみで運用
構造				
メリット/デメリット	小規模の場合はインisialコスト低 カメラ台数増えるとランニングコスト高い ネットワーク遅延も発生する	A All on CloudとC Client on Cloudの中間的な運用 インisialコスト高 ランニングコスト中	インisialコスト高 ランニングコスト低 運用はAll on Cloudと変わらない 大規模システムではこの形式が多い	ネットワークに接続せずローカル運用 ハッキング等によるセキュリティリスクゼロ

当社の提供範囲

安さ手軽さよりも、運用をして、より効果を高めたいというユーザーに対して、
ワンストップでコストパフォーマンスに優れた**最適なシステムを提供**

SECURE

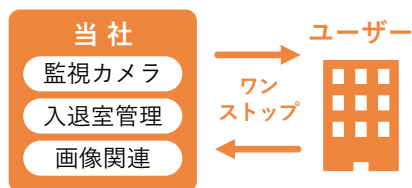
監視カメラ・入退室管理、
画像関連までハード/ソフト
を一気通貫で提供可能なこと
による価値提供

その他企業

一般に監視カメラや入退室管理、
画像関連等のサービスは
それぞれ特化して提供している。
シンプルな機能のIoT系
サービスが多い

ユーザビリティ

ワンストップで提供



ワンストップで提案が可能

複数の企業から購入



一般的に監視カメラ、入退室管理、顔認証等の画像認識は別々の会社

価値提供

最適化モデル



必要な全ての領域に対応出来るため、
ニーズに合わせた最適化が可能

性能 or コスト



特定領域にのみ強みを持つプレイヤーは
いるがシステム全体での最適化は難しい

ニーズ/目的

高度な運用



大量のカメラの運用、顔認証等の
画像認識技術の活用や
セキュリティ以外の多目的利用も可能

手軽さ



シンプルなモニタリング/録画や
ロック機能

大規模商業施設からITベンチャー、食品工場まで14,000社以上の導入実績
 様々なお客様の働く環境に、安心・安全とプラスアルファの価値を提供



導入クライアント（一部抜粋）

LINEヤフー



九州フィナンシャルグループ



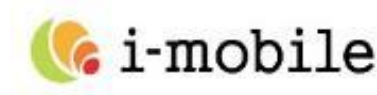
SmartNews



サッポロ不動産開発株式会社



A D A S T R I A
 Play fashion!



GA TECHNOLOGIES



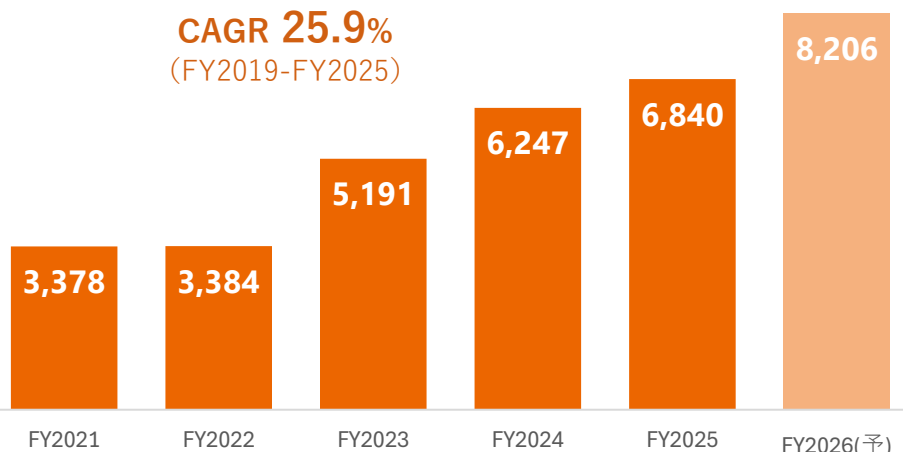
財務ハイライト

SECURE

売上高

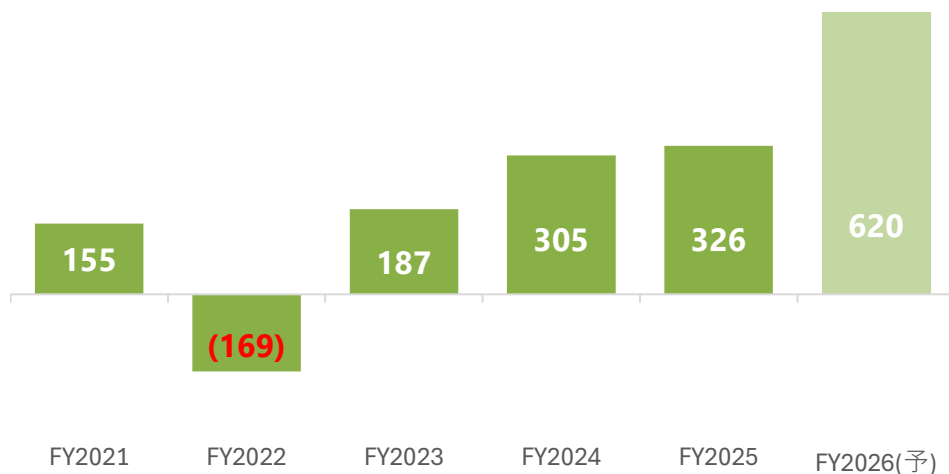
(百万円)

CAGR 25.9%
(FY2019-FY2025)



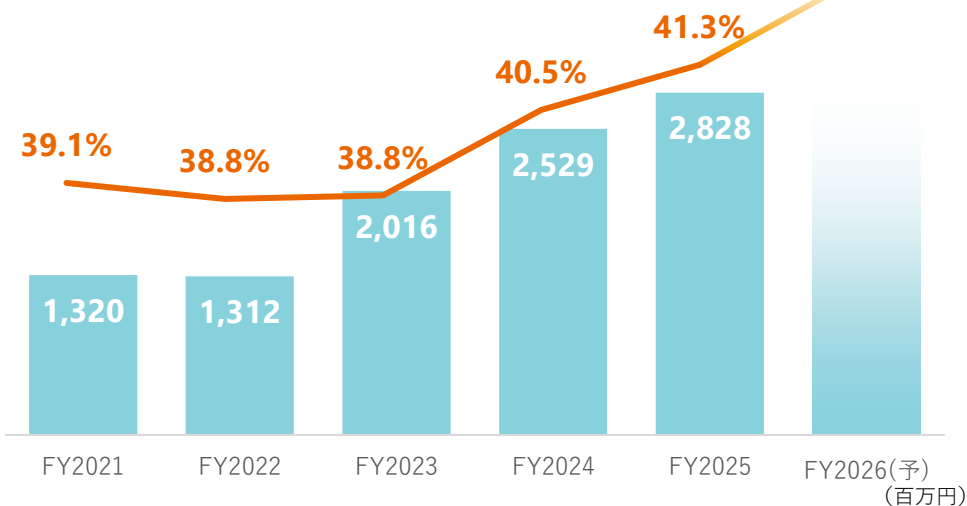
営業利益

(百万円)



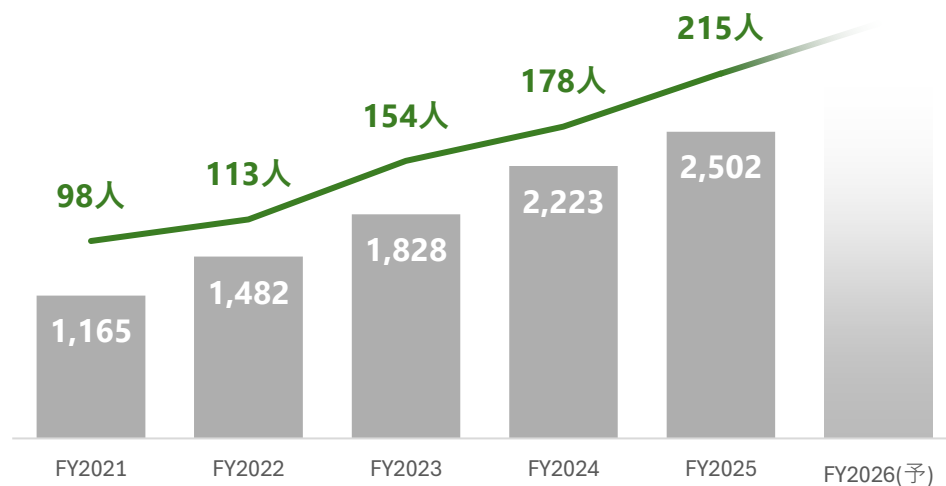
売上総利益・総利益率

(百万円)



販売管理費・従業員数

(百万円)



セキュリティシステムの構築は非常に複雑。

当社ではセキュリティシステムの、より**高度な運用と多目的化を追求**。

SECURE VS



20万台の
カメラ&
システム構築

- 全国の店舗に合計**200,000台超**のカメラシステムを構築
- 膨大な量のカメラの互換性とデータ損失のリスクに対応
- 大量のカメラ画像を一元管理できる優れたマネジメントシステム

主な目的

年間数十億円規模の
ロス率削減

SECURE VS



200店舗へ
カメラ設置

- 臨店コスト削減のため200店舗超の防犯カメラ画像を活用
- 通信コスト削減のため既存の回線を活用
→データ量の大きいカメラ画像でPOSシステムの通信を圧迫しないよう
帯域を自動でコントロール

主な目的

臨店コスト/通信コスト
の削減

SECURE AC/VS/Analytics



高度な
画像技術

- 監視カメラで**セキュリティ+マシン**の稼働率分析
- 会員は**顔認証**で手ぶらで入店可能
- 混雑状況もWebで確認

主な目的

半無人化運営

02

- 01 事業内容
- 02 セキュアの強みは？
- 03 なぜ成長するのか？
- 04 2つ目の成長戦略始動

セキュアの強みは？

高度な顔認証・画像認識技術を活用し、顧客ニーズと世の中の流れを汲んだサービスを開発

特に顔認証関連商品は、**ライセンス・デバイス合わせて11,000件以上の導入実績**

非接触ニーズで需要の高まっている**顔認証の国内シェアは数量と売上高でNo.1を獲得**

顔認証関連のサービスの概況

(件)

累計販売数(四半期毎)

11,000件以上

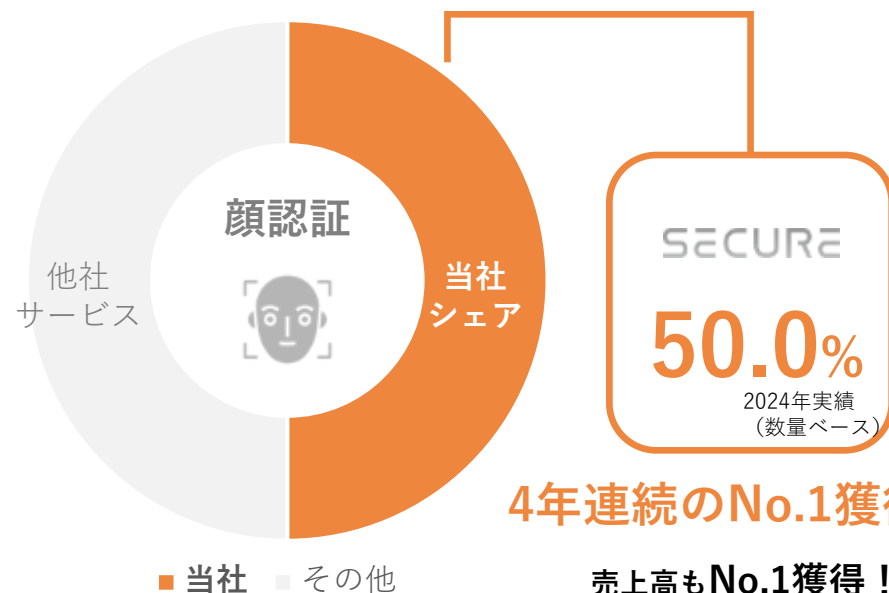
(2025年12月末時点)



※ライセンス：「顔認証のぞき見ブロック」 「Face Tracker」の顔認証ソフトウェアライセンス
 ※デバイス：入退室管理システム導入時に設置される顔認証デバイス

顔認証国内シェア率（入退室管理用途）

オフィスやフィットネス
 食品工場等で幅広く導入
依然高い非接触ニーズで今後も需要高まる



4年連続のNo.1獲得！

売上高もNo.1獲得！

出典：富士経済 「「DXを実現するセキュリティ関連技術・市場の将来展望2025」の
 2024年実績（数量ベース・金額ベース・入退室管理システム）

サービス提供の範囲		A社	B社	当社	
		一般的なソフトウェア系企業	一般的な監視カメラ入退室システム企業	画像認識からソフト・ハードや設置環境まで、それぞれ高い専門性を持っているので、リソースの無駄なくパフォーマンスを最大限に引き出したシステムの提供が可能	
	画像認識	↑ ↓		↑ 一気通貫して対応可能 ↓	
	ソフトウェア				
	サーバ構築				
	デバイス				
	ネットワーク構築				
	システム設計				
	設置環境				
アフターフォロー					

POINT

1. 1,000種類以上のデバイスから最適提案

2. パフォーマンスとコスト・品質の最適化

3. オンプレ or クラウドニーズに合わせて提案

POINT

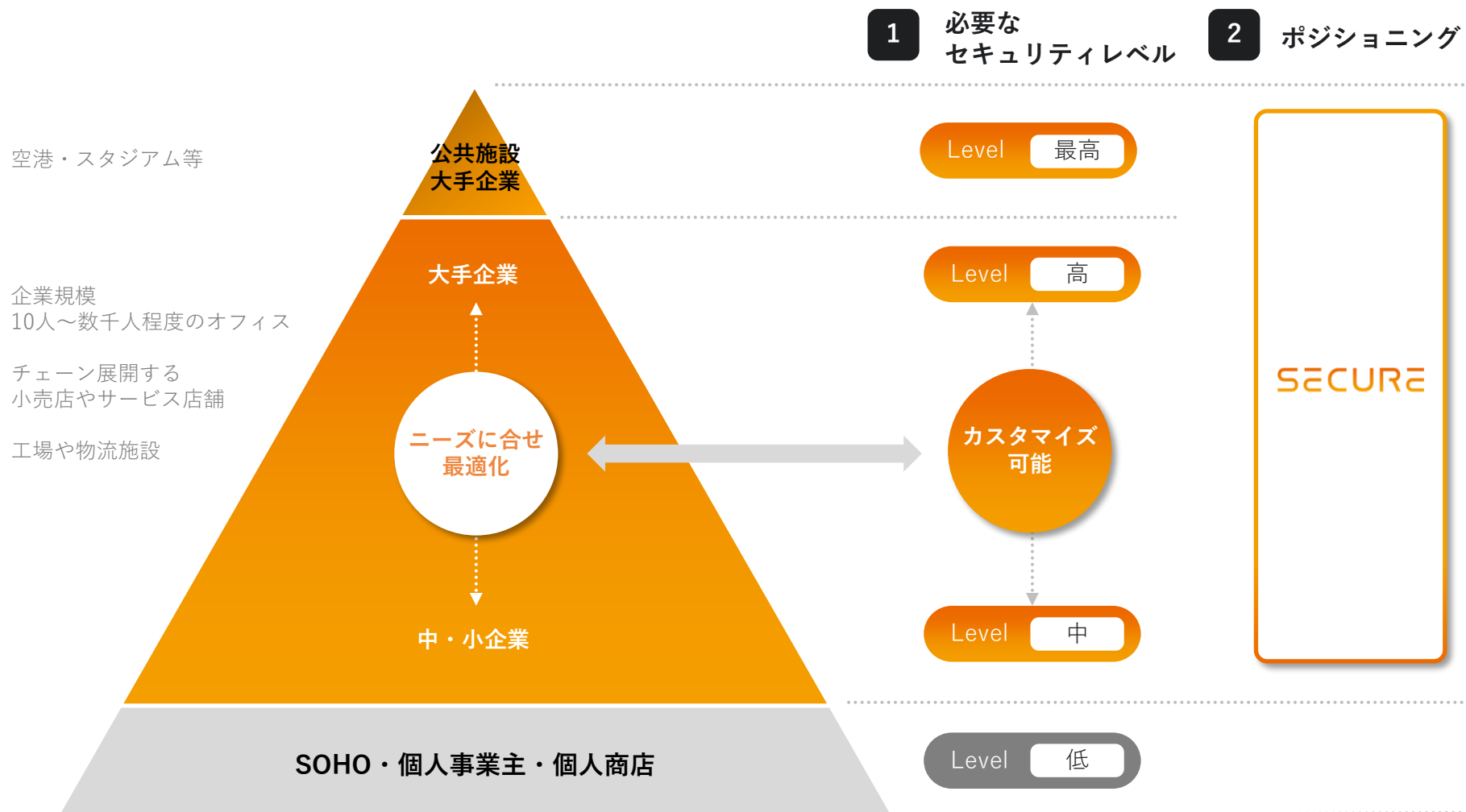
- 1,000種類以上のデバイスから最適提案
- パフォーマンスとコスト・品質の最適化
- オンプレ or クラウド
ニーズに合わせて提案

Security System Labでシステムの最適化の研究と専門人材の育成を行ない、
高度なセキュリティサービスを顧客にとって最適なソリューションとして提供できるように研究
開発を実施

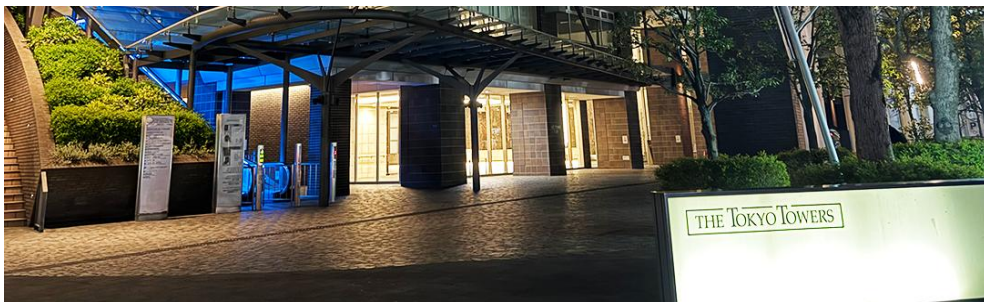
多様な要素を常にアップデートしシステムの高度化を追求



当社がメイン領域とする「中・小企業～大手企業」の領域で事業を展開するには、様々なデバイスでシステムを構築＋一定のセキュリティレベルが必須であり、**単一IoT事業者では開拓できない領域。**



【総戸数2,794戸の大規模タワーマンションで、防犯カメラ刷新を起点に“安心・安全”と“将来拡張性”を両立】



事業内容：THE TOKYO TOWERSの管理
所在地：東京都中央区
導入商品：防犯カメラシステム（オンプレミス型）
導入年月：2025年2月

- ✓ 外部からの出入り増加に伴う防犯上のリスクを背景に、拡張性に優れた防犯システムへ刷新
- ✓ マンション単体にとどまらず、周辺環境も踏まえた再構築の第一歩

課題

- ・竣工時に防犯カメラ設置済も、画像は粗く老朽化も進行。故障頻度も高まっていた。
- ・社会環境の変化により勝どきエリアの人の流れが活発化し、外部からの出入り増加で**防犯リスクが上昇**していた。

システムの特徴

- ・**駐車場や駐輪場、エレベーターホール、ポストなど**、トラブルが想定される箇所を重点的にカバー。
- ・その他のエリアについても最大限死角がないよう、**綿密にプランニング**したカメラ配置となっている。

セキュアを選んだ理由

- ・最新機器導入だけでなく**将来を見据えた提案**を行ったことで、信頼できると感じた。
- ・管理組合の活動日に合わせた**柔軟な対応**や、担当者による**きめ細やかなサポート**も心強かった。

導入効果

- ・「**撮影範囲が広がって非常に助かっている**」と好評。
- ・モニター上での即時確認が可能となったため、**省力化**にもつながった。

展望

- ・顔認証による人物特定、不審者検知、共連れ行為への対策など、**AI連携による警備業務のDX化**を目指す。

【設置写真】



▲ エントランス



▲ エレベーターホール



導入企業

企業名	日本通運株式会社
事業内容	小売／ソフトウェア開発／物流 ／商品開発・製造
所在地	佐賀県鳥栖市
導入年月	2024年12月
従業員数	-

導入サービス

SECURE VS



セキュリティカメラ



モニタリングシステム

システムの 特徴

- ・200万画素のカメラと500万画素の全方位カメラの組み合わせによる鮮明な映像による監視・記録
- ・業界トップの全方位カメラビューアー操作機能
- ・約4～7台分のカメラの範囲を全方位カメラ1台で網羅

導入後の 効果

- ・ **カメラ台数削減**による
保守費用の削減/故障率の低減/運用管理の工数の削減
- ・操作性の良い管理ソフトウェアによる
現場管理/確認業務の軽減/従業員のセキュリティ・セーフティへの意識の向上
- ・人が少ないエリアの現場把握・トラブル発生時に
複数アングルから状況確認を行い、**現場に行かずとも対応可能**に。

課題・導入目的

- 倉庫内状況・伝票情報の把握
- 物品の破損・配送ミスの原因の特定
- 問題発生時の映像の記録及び責任を明確化
- セキュリティ強化・従業員の安全管理の実現
- 死角のない映像管理
- コストアップを抑える工夫
- 多数のカメラの効率的な映像管理
- 広大な敷地における現場確認作業の時間と負荷の削減
- 労災対応

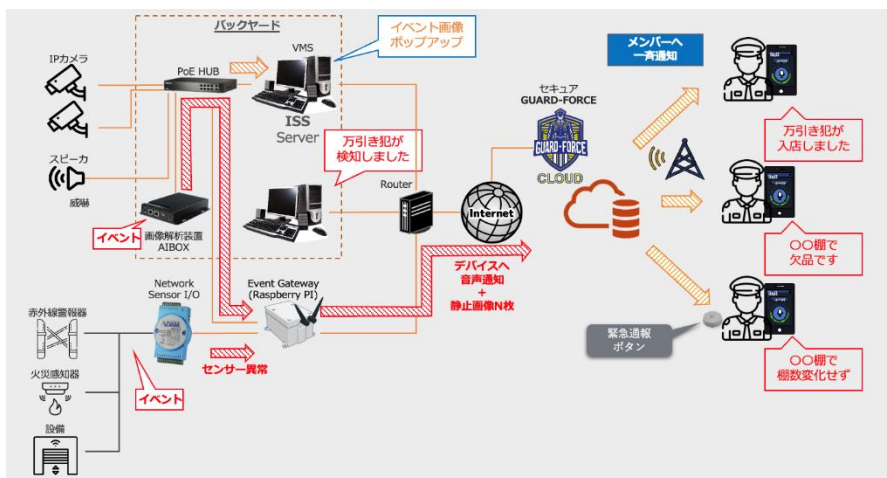
今後の取り組み

「ネットワークカメラソリューション×AI検知」で安全管理の向上を実現
フォークリフト稼働エリアへの人の侵入をAIで検知するための実証実験を検討
フォークリフト非運転手の検出 フォークリフトの検知 人・車の侵入



～万引き防止や人手不足解消～

Guard Force



- ✔ 抑止目的で設置し、被害状況確認のために視聴
- ✔ 数時間分の録画映像視聴にも一定の工数が必要

AI解析でカメラが捉えた状況を 音声で店舗スタッフへ通知

通知内容例

- ✓ 欠品商品があれば自動でお知らせ
- ✓ 店舗スタッフからの「〇〇売り場の棚状況」の問い合わせに、AIが音声・画像で回答
- ✓ レジの行列状況を自動でお知らせ
- ✓ 万引き行為をAIが分析
- ✓ 万引き犯が再来店した際にインカムでお知らせ



導入企業

企業名	某社
事業内容	データセンター
所在地	国内
導入年月	2023年～
従業員数	-

導入サービス

SECURE AC SECURE VS AI BOX



セキュリティカメラ



入退室管理システム

課題・導入目的

- 各種システム連携より効率的なデータセンター運営
- 静脈以外の生体認証へのチャレンジ
- 遠隔地の現場を管理できる統合システム
- 必要な機能に絞ったコストの最適化
- 全方位カメラによるカメラ台数の削減

キオスク端末 セルフ入館手続き



APIを用いた各種管理ツールの活用



入館システム連携



Slack通知



アカウント棚卸

今後の取り組み

「外周警戒をAI検知」

都道府県の規定で低い外周の柵への警戒を、警備員により対応しているが、それをシステムに置き換えていきたい。最終的にはドローンと連携したAI警備の実現を目指す。

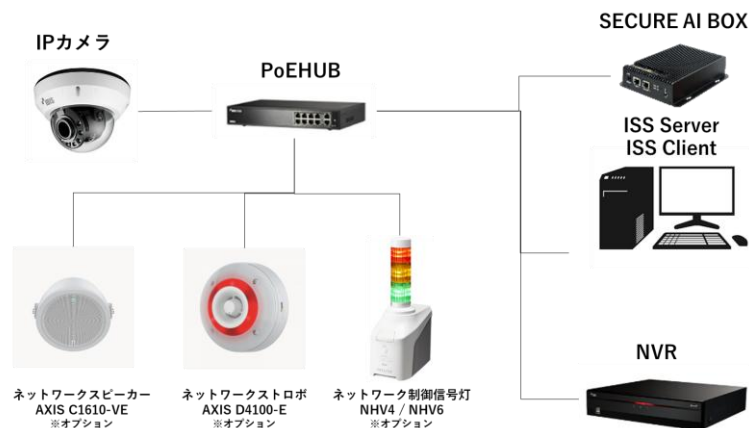


監視カメラの進化と工場運営の最適化

～業務改善・品質管理・安全対策を実現する映像活用～



導入サービス 監視カメラ+AI BOX



※AIBOXはPoCで運用中

これまでのカメラ（課題感）

- ✓ 記録が主目的で操作性が悪く、迅速な問題解決が困難
- ✓ AI導入のコストが高額で費用対効果が不透明



新たな運用（普段使い）

- カメラを150台から350台に増やし隙間なく記録
- 映像技術を活用し、効率的な工場運営を達成
- AIと監視カメラの組み合わせで迅速な問題解決を可能に

◎ 業務改善

- 良い・悪い作業の映像を活用し、従業員のトレーニングに活かす！

◎ 品質管理

- 映像のリアルタイム活用
→大型モニターやタブレットで即時確認可能に！
- 操作性の向上
→セキュアの監視システム導入により迅速な映像確認を実現！

◎ 安全対策

- AIシステム導入により、走行検知・危険エリア親友防止を実施！

文教施設、商業施設、公共施設など多数の人が利用する場所における盗撮行為を未然に防ぐため、監視カメラの設置が難しいトイレ・更衣室等に対応可能な、独自の「**盗撮防止ソリューション**」の開発を開始

開発背景

- 教育現場や公共施設における盗撮被害が深刻な社会問題に。
- 特にトイレや更衣室などのプライバシー性の高い空間での盗撮行為が深刻。



監視カメラの設置が困難な場所での“**見えない危険**”への対処が急務

ソリューション概要

- **映像監視を行うことなく**、盗撮目的のカメラなどのデバイスを検知する、新たな仕組み。
- トイレや更衣室などの空間にも設置可能な独自技術。



今後の展開

- 年内の実用化・販売を目指し開発を進める。
- 文教施設や商業施設、公共施設など、多数の人が利用する場所への導入を想定。
- 未来を担う子ども達を守る**新たな社会的インフラ**へ。
- 人々が安心して暮らせる、スマートな社会の実現へ。

03

- 01 事業内容
- 02 セキュアの強みは？
- 03 なぜ成長するのか？
- 04 2つ目の成長戦略始動

なぜ成長するのか？

世界の監視カメラ市場規模は
2025年から2030年にかけてCAGR 11.2%を記録し、
2030年には813億7,000万米ドルに達すると予測

出典：グローバルインフォメーション

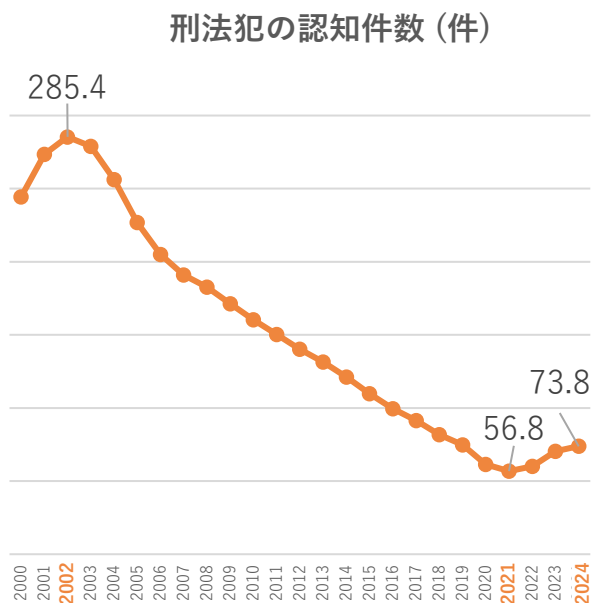
→2025年 約7.2兆円
2030年 約12.2兆円 (1.7倍)

日本市場 2025年 約2500億円
2030年 約4500億円

出典：矢野経済 CAGR 12.5%

防犯セキュリティ需要増

刑法犯の認知件数は
戦後最小の2020年から
3年連続で増加傾向



出典: 警察庁

サイバーセキュリティ連携

国際的に高まる
情報へのセキュリティ要求

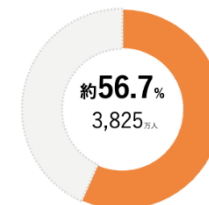


- ✓ 情報セキュリティの国際規格であるISO27001は 適宜アップデートをされており、最新は2022年
- ✓ ISOより提示された、全体で93個の管理策 (対応策) の内、
14項目は当社の扱う物理的管理策に該当

人手不足問題

人手不足問題と
ノンデスクワーカーが中心の業界
におけるDXの遅れ

労働人口の
約60%を占める
巨大な市場



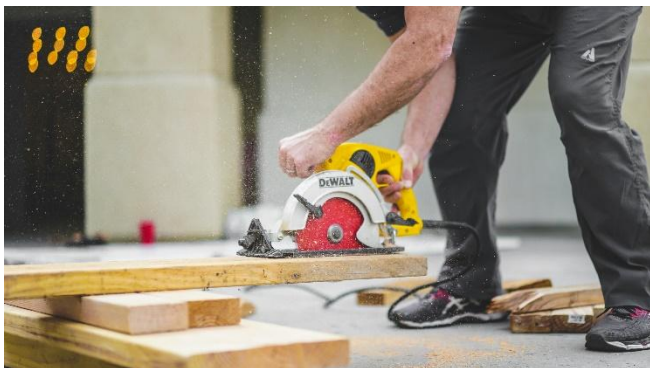
建設業など
生活を支える
多くの業種



国内に600万台以上設置されている監視カメラの用途は、事後確認の映像記録に留まる
当社がAIやクラウドを活用することで監視カメラの概念を覆し、新たなセキュリティ市場を創造

既存市場構造

セキュリティ業界は
建設資材(設備)として発展



- ✓ プレイヤーは大手電気メーカーやサブコン
- ✓ これまでも年率3~5%で成長しているが、API連携の不足などにより、ユーザーの運用ニーズに100%は応えられない



当社が再構築する市場

監視カメラを
ビジネス課題解決ツールへ



- ✓ ビジネス課題を解決するツールとして監視カメラを位置付け、高度なITネットワークソリューションとして市場を再構築
- ✓ 再構築しつつまずは日本No1シェアを獲得

オフィスデザイン会社・警備会社・OA機器販売会社等、企業におけるセキュリティニーズを瞬時に感知できる業種を中心に幅広い**200社超の販売パートナー企業**（一部抜粋）
業界の大手企業が販売パートナーとなっており、大型案件の獲得にもつながる



+200社以上

共同調達&開発

BUFFALOTM**RICOH**
imagine. change.

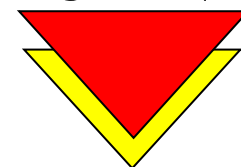
拡販強化

資本業務提携

セキュアグループ

SECURE
KOREA**TESCOM**
CCTV SYSTEM SOLUTION

開発

SECURE
ソリューション**MEDIA SYSTEM**
メディアシステム**JTN**エンジニアリング/
インストレーション

リテールソリューション

TTG

資本業務提携

TTG株主

**TOSHIBA****CIA** Crisis
Intelligence
Agency

資本業務提携

万引き削減

世界の監視カメラ市場規模は
2025年から2030年にかけてCAGR 11.2%を記録し、
2030年には813億7,000万米ドルに達すると予測

出典：グローバルインフォメーション

→2025年 7.2兆円
2030年 12.2兆円 1.7倍



日本市場 2025年 2500億円
2030年 4500億円

出典：矢野経済 CAGR 12.5%

運用ニーズ（普段使い）による
付加価値UPで日本市場No1を獲得する

04

- 01 事業内容
- 02 セキュアの強みは？
- 03 なぜ成長するのか？
- 04 2つ目の成長戦略始動

2つ目の成長戦略始動

3つの成長戦略

① 既存ビジネス

パートナーの深堀・発掘

+

AI強化・SaaS強化

↓
継続成長
収益力UP

2つ目の成長戦略を
本格始動

② Retail DX

AI STORE LAB
収益化

↓
新たな収益

③ 海外展開

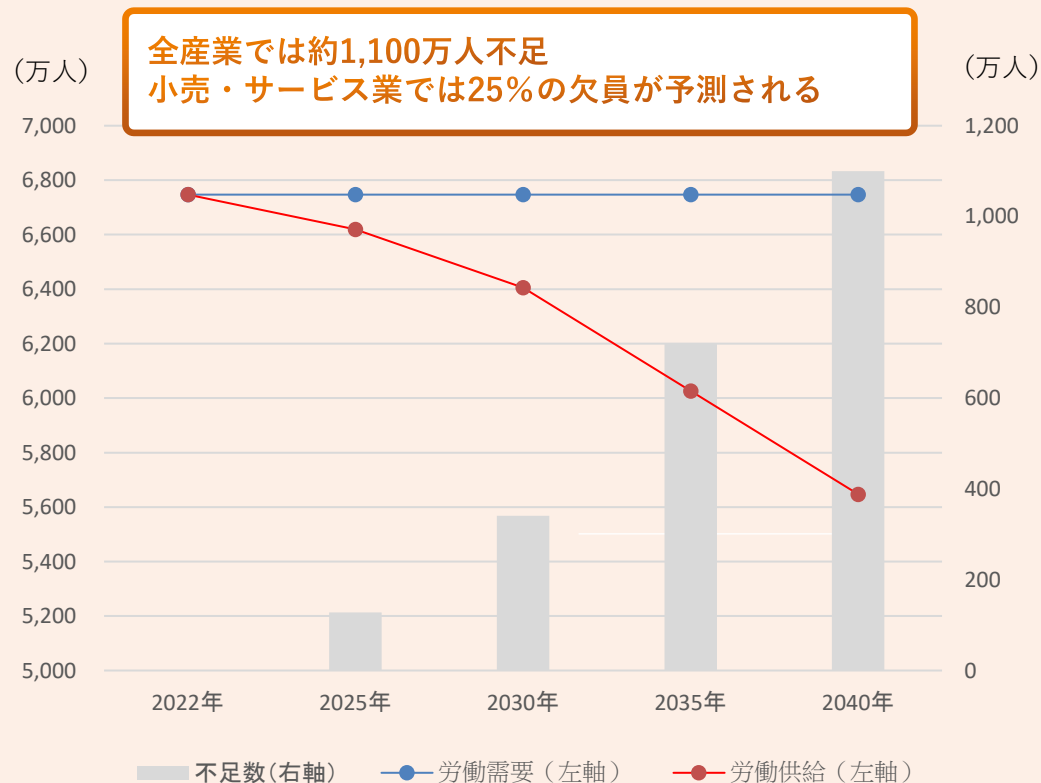
韓国・ASEAN
への展開

↓
市場の拡大

SECURE

人手不足の恒常化により万引き被害が拡大する等、店舗運営を取り巻く課題は構造的に深刻化
こうした課題への対応策として、AIを活用したリテールDXの推進が不可欠

労働需給ギャップの推移（2022年～2040年）



万引き市場
年間被害額 **8,000億円**

小売業人件費総額推計
2024年 約**19兆円**

流通・小売のDX関連国内投資額見込
2030年度 **1,852億円** (CAGR 13.7%)

無人店舗向けソリューション市場
2027年度 **97億円** (CAGR 94.5%)

監視カメラシステムの応用で独自開発した無人店舗を新宿住友ビルにて実証中。
誰がどんな商品を手にとったかをAIが認識し、お会計は顔認証で手ぶら決済を実現。

コラボ第1弾 アットコスメ(20.7~21.3) 第2弾 小学館DIME(21.4~)

顔認証による入店・決済

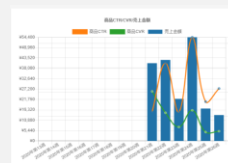
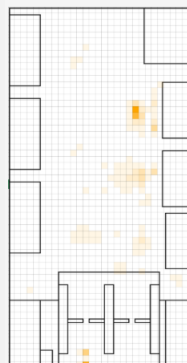


AI商品棚



手にとった商品を自動で認識し、AI商品棚にあるサインエージ上の買い物かごに表示される。またネット上の口コミ情報も自動的に表示される。

インストアアナリティクス



購入前の来店者の行動を定量化。「手にとって購入しなかった商品」の情報も分析可能。

たったの3ステップで、ちょっと未来のお買い物体験



入店方法は簡単

お買い物を始めるには、
アプリに表示されるQRコードをかざすか
クレジットカードをかざすだけ。

スムーズなお買い物

AIがカメラ映像を解析し、
お買い上げの商品を判別します。
プライバシーの配慮も対応します。

あとはお店を出るだけ！

お会計はレジに並ぶ必要はありません。
退店するだけで会計が完了し、
決済情報はアプリに送信されます。

セキュア、ミニストップ、NTT東日本、テルウェル東日本4社でミニストップ ポケットでの実証を開始。ウォークスルー型店舗の商用化を目指す



店舗写真

ウォークスルー型店舗のメリットと当社の特徴

顧客利便性の向上

- ✓ ウォークスルー型の購買形式によりレジ待ちの待機時間を抑制

店舗運営の効率化

- ✓ レジ人員の削減
- ✓ レジ設置が不要になることによる効率的な店舗空間の利用



導入コストの抑制

- ✓ カメラによる映像検知のみとすることで導入コストを削減（一般的なウォークスルー型店舗では重量センサーを使用）



- 1 QRコードをかざして入店
- 2 商品を手に取る
- 3 そのまま退店

店舗利用イメージ

- ✓ オフィスビルなど、リピート客で混雑しがちだが特定商品を素早く購入したいニーズのあるコンビニ店舗
- ✓ レジ待ちによる混雑が発生しがちなコンサート会場やスタジアムの物販シーンなどを意識した展開を継続

みずほPayPayドーム福岡に
完全ウォークスルー型レジレス店舗「HAWKS Smart Stand Powered by SECURE」3月28日オープン
～24台のネットワークカメラとAIが利用者の購買行動を検知・解析～



2026年4月1日に（株）セキュアが56%の株式を取得しグループイン
無人決済システムの開発及びソリューションの提供を手掛ける

会社情報

会社名	株式会社 TOUCH TO GO
所在地	東京都港区高輪2-21-42 TokyoYard Building 8F
設立年	2019年7月1日
資本金	1億円
従業員数	60名

沿革

2017年	無人決済店舗システムの実用化を目指し実証実験を始める
2019年	JR東日本スタートアップ(株)及びサインポスト(株)のJVによりカーブアウトスタートアップとして設立
2020年	JR高輪ゲートウェイ駅に初の無人決済店舗TOUCH TO GOをオープン
2025年	2025年2月～11月、JR East Business Development SEA Pte. Ltd.の支援を受け、国外進出第1号として、JTC Corporation（シンガポール政府企業）に「TTG-SENSE」を採用いただき実証実験を実施。

サービス導入事例



JR高輪ゲートウェイ駅 TOUCH TO GO



株主構成

株主名	持分比率
株式会社セキュア	56.2%
JR東日本スタートアップ株式会社	20.0%
株式会社ファミリーマート 東芝テック株式会社 グローリー株式会社	計23.8%

両社のタッグにより、様々な規模の業種へアプローチ
無人化/省人化店舗の幅広い普及を目指す

SECURE AI STORE LAB 2.0

高単価×大規模

完全レジレス

- ・セキュリティ分野で培ったテクノロジー
- ・全国展開を可能とするサポート力
- ・店舗の安全・運用・収益化を総合的に支援

ターゲット

レジ

強み

TOUCH TO GO

低単価×小規模

多様な無人決済ソリューション
(現金やポイントも可)

- ・累計250店超の豊富な導入実績
- ・高い実用性と市場適応力
- ・カスタマイズ性の高い商品ラインナップ

×



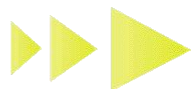
SECURE AI STORE2.0



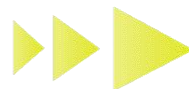
JR高輪ゲートウェイ駅「TOUCH TO GO」

会員登録不要で誰でも入店可能。AIカメラと重量センサーで手に取った商品を自動で認識し、レジに表示⇒スキャン不要で会計が可能

はいる。
Enter from the gate.



とる。
Take the goods.



でる。
Touch to Go!

HAVE A
NICE DAY



2026年初頭に無人店舗の先駆けだったAmazon GOの撤退が発表されているが、これには、日本と異なる米国の購買行動・労働市場・商習慣との相性も影響しているものと認識
無人店舗は“安心”“安全”という社会インフラに強く依存するビジネス

Amazon GO撤退から見る米国の事情

「**米国特有の市場環境との不適合**」が要因

「**無人店舗モデルの否定**」ではない

米国

イベント型
購買

- ◇週1回のまとめ買い、車移動前提
- ◇家族単位での長時間滞在
- ◇ウォルマートのような大型店舗

- 窃盗や強盗などの凶悪犯罪が多発
- スタジアムなどでの「少量購入」シーン
では無人店舗の導入が進む

【(NBA)ロサンゼルスクリッパーズ Intuit Domeなど】

日本固有の構造的必然性

不可逆的な人口動態、**深刻な人手不足**

無人店舗は「効率化施策」だけではなく
もはや「**インフラ維持のための手段**」

日本

日常
インフラ型
購買

- ◇徒歩・自転車での少量購入
- ◇短時間滞在が基本
- ◇成熟したコンビニ文化

- 自動販売機・無人販売の浸透
- 働き方改革と長時間営業のジレンマ

買い物文化の違い

【セキュア×TTG】で、各施設特性に応じた無人店舗モデルを展開し、持続的かつスケラブルな成長を果たし、圧倒的シェアNo.1を目指す

日本でスケールしやすい無人店舗の類型と想定されるマーケットポテンシャル（例）

限定シーン特化型店舗

オフィス/工場/病院/学校/
建設現場



病院：約8,000施設
大学：約800校
大規模オフィス
：約20,000施設
工場：約200,000施設

時間帯限定無人化店舗

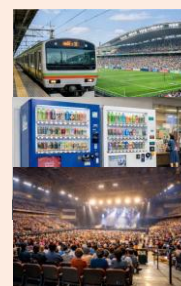
夜間早朝だけ無人化/
日中は省人化



スーパーマーケット
：約23,000店
コンビニエンスストア
：約57,000店

小型・高回転型店舗

駅ナカ/省スペース/
自販機代替/イベント



鉄道の駅：約9,000駅
自販機：約2,600,000台
スタジアム：約300施設
（推計）
屋内アリーナ：約200施設
（推計）

SECURE



まずは早期に1,000店舗の導入を目指す

店舗の無人化・省人化とセキュリティ強化は、相互に切り離すことのできない表裏一体の課題
短期的にグループ資産活用によるTTGの赤字早期解消、中長期は収益モデルの進化を目指し
セキュアグループ全体の事業基盤強化と企業価値の最大化を図る

中長期成長ロードマップ

早期に1,000店舗導入を目指す

- TTG株主（JR東日本、ファミリーマート、東芝テック、グローリー）との強力なエコシステムを継続・深化

収益モデルのストック化

- クラウド型店舗管理システムなど月額システム利用を積上げ安定的な収益基盤を構築

無人化/省人化ソリューションのみではなく
高利益率な「店舗運営プラットフォーム」の構築で企業価値の最大化を図る

STEP 1

経営基盤の統合

グループ資産活用による
コスト削減と効率化

- セキュア全国規模ネットワーク
- 既存顧客へクロスセル
- 原価率の改善

→FY26/12での
TTG単独黒字化を目指す

STEP 2

市場の独占

AI Store×TTGのタッグで
圧倒的シェアNo 1を目指す

- スケールポイントの見極め
- 各施設に応じた店舗開発
- 日常インフラ型の浸透

→ストック収益の積上げ

STEP 3

収益モデルの進化

さらなるビジネスの積上げで
非連続な利益成長の実現

- AIデータ利活用でストック積上げ
- 「決済×セキュリティ」の融合
- 「社会インフラ」の地位を確立

→高利益率な
店舗プラットフォームの構築

店舗の無人化・省人化とセキュリティ強化は、相互に切り離すことのできない表裏一体の課題。強みの相互補完に加え、両社の技術・顧客基盤を活かしたクロスセルにより、売上拡大とコスト削減の両面で企業価値向上を図る。

AI セキュリティ

万引き削減



社内不正削減



カスハラ対策



AI & データ利活用

Store Analytics



データ連携・解析



TTGグループイン
により強化

マルチモーダルAI



無人化・省人化

AI STORE LAB



大規模
高単価

TTG-SENSE



TTG-MONSTAR



小規模
低単価

既存のセキュリティソリューション事業で基盤を固め、**SaaS型ソリューションやAI技術を活用した新規ビジネスで成長を加速**させ、安心安全でスマートな社会の実現を目指す

方針

更なるAIの実装力を強化し
企業価値の最大化を図る



- 本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。将来予想に関する記述には様々なリスクや不確実性が含まれており、その結果、実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。
- これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内及び国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- また当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証していません。
- 今後、「事業計画及び成長可能性に関する事項」については、決算発表の時期（3月）を目途に開示を行う予定です。